



— JA青年部 —

いいねをいっぱい届けたい

— 目次 —

- | | |
|---------------|----------------|
| P02・組合長あいさつ | P16・平鹿総合病院からの |
| P03・インフォメーション | お知らせ |
| P04・【新春特別座談会】 | P17・ニュース&トピックス |
| P10・ふるさと産品 | P18・バラエティコーナー |
| 令和7年を振り返る | P20・インフォメーション |



JA秋田ふるさと





秋田ふるさと農業協同組合
代表理事組合長

佐藤 誠一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中に組合員の皆様から賜りましたご支援とご協力に對しまして厚く御礼申し上げます。

昨年は、地域農業が抱える恒常的な問題や、激しく変化する国内外情勢、異常気象に對峙し取り組んだJA事業でございました。

生産の現場では、春の天候不順、6月から8月の異常な高温と干ばつ、鳥獣被害対応にご苦労された中、熊による被害も広範囲に及びました。このように厳しい環境下においても高い栽培技術を發揮された生産者皆様のたゆまない努力に敬意を表します。生産量では計画に及ばない品目もありましたが、高単価や米概算金の上昇により農畜産物販売高は、JA秋田ふるさと設立以来最高となる319億円を見込める状況です。来る2月19日には300億円達成を記念する令和7年度生産者大会を企画しています。生産者、流通関係者、行政機関が



一堂に会し令和7年度の販売実績の振り返りと、8年度以降の生産販売計画の方向性を示し5年10年先を見据えるとともに、持続可能な地域農業発展への意思統一と、農業生産に向かう意欲喚起の大会と考えていますので宜しくお願いいたします。

さて、国の農業構造転換集中対策期間にあり、需要に応じた生産を法制化する食糧法改正案が審議されようとしております。米を主産とした園芸果樹畜産の複合産地振興に取り組む当JAは、この転換期をチャンスと捉え農業所得向上を第一に、総合事業を展開してまいります。

基本である農地を守ることは地域を守ること、生産なくしてJAなし、を胸に刻み、役職員一同「頭は低く、足は軽く、心は熱く」を行動指針に励んでまいりますので引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

初春のお慶びを

申し上げます

代表理事組合長	佐藤 誠一	理事（大雄地区担当）	高橋 稔
代表理事副組合長	佐藤 寿一	理事（大森地区担当）	加藤 司
代表理事専務	高橋 司	事	菊地 寛之
代表理事専務	柿崎 大二朗	理事（千文字地区担当）	小西 與一
理事（金沢地区担当）	本間 恒	理	柿崎 孝一
理	加藤 堅之助	理	藤原 英樹
理事（熊手地区担当）	柴田 多一	理事（増田地区担当）	鈴木 敏美
理事（山内地区担当）	中村 正子	理	田中 隆
理	加藤 智記	理	神谷 光子
理	小田嶋 契	理	福田 節子
理	木村 公夫	代表監事	眞田 久之
理事（平鹿地区担当）	柴田 忍	監	佐藤 和弘
理	高橋 孝太	監	松井 均
理事（鹿角川地区担当）	堀田 忠久	監	佐藤 尚史
理	小西 均	常勤監事	渡邊 登
理	東海林 光博	員外監事	佐藤 秋弘



～横手税務署からのお知らせ～

横手税務署での確定申告書の作成は スマホ・マイナンバーカード・入場整理券 (2種類のパスワード) が必要です

●横手税務署申告書作成会場

期 間／2月16日(月)～3月16日(月) ※土日祝除く
＜受付開始＞ 8：30～ ＜相談開始＞ 9：00～
会 場／横手税務署2階

◎申告書作成会場への入場には、「入場整理券」が必要です。
 ぜひLINEによる事前予約をご利用ください。

なお、税務署での当日配付もあります。

◎税務署での申告書の作成はスマホとマイナンバーカードを
 使用してご自身で作成いただきます。



国税庁
LINE公式アカウント

申告書作成に必要な書類のほか、スマホ・マイナンバーカード及びマイナンバーカードに係る2種類のパスワード(数字4ケタ及び英数字6～16ケタ)が必要です。申告書作成時にパスワードが分からない等の場合には、会場で作成した申告書データをご自宅等からご自身で送信していただく場合があります。

■今年はぜひご自宅などからe-Taxを！

ご自宅などからのe-Tax申告を推進しています。国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」をぜひご利用ください。



確定申告書等
作成コーナー

【問合せ】横手税務署個人課税部門 ☎0182-32-6039



J A秋田ふるさと青年部

副部長

高橋 達也

J A秋田ふるさと青年部

副部長

佐藤 龍太郎

J A秋田ふるさと青年部

部長

小原 暢

J A秋田ふるさと専務理事

柿崎 大二郎

J A秋田ふるさと組合長

佐藤 誠一

青年部が耕す食の未来 農業青年と農家のリアル

国消国産や食料安全保障が叫ばれる昨今。農業の未来と食農教育の必要性について農業の担い手である青年部員と佐藤誠一組合長・柿崎大二郎専務が語り合います。

国消国産と食育の必要性

専務…新年明けましておめでとうございます。
ごいます。

青年部の皆さんにおかれましては、この度、令和7年度秋田県J A青年大会「青年の主張発表」・「活動実績発表」で最優秀賞、「看板づくりコンクール」で優秀賞と素晴らしい成績を収められました。日々の皆さんの活動が実ったの受賞と、心からお祝い申し上げます。1月20日から21日には山形県鶴岡市で東北・北海道ブロック大会が開催されます。ぜひ、全国大会へ向けて頑張ってください。願っております。

さて、今回の座談会テーマは「青年部が耕す食の未来」ですが、その中で外せないのが「食育」です。今日は我々が考える食育と、なぜ今食育が必要とされているのかご参加の皆様のお考えをお聞かせ願います。まずは組合長、今の環境下で、なぜ「国消国産」と「食育」をセットで伝える必要があるのか、J A秋田ふるさととしての考えをお聞かせください。



部長

小原 暢 (47歳)

【学歴】

秋田福祉専門学校卒

【職歴等】

増田小学校用務員

横手市除雪作業員

【作付け品目・面積】

りんご約180a、そば約480a、
バラ10a

【青年部以外の役職等】

りんご部会増田支部副部長、
(副)横手福寿会評議員

【趣味等】

温泉旅行、映画鑑賞

組合長…「食」は人間が生きていく

基本です。JAグループとしても以前から食農教育や地産地消を運動としてきましたが、日本は食料の約6割を海外からの輸入に頼っており、食料自給率は低下傾向にあります。世界情勢の変化や円安などの影響で、肥料や燃料といった生産資材の価格が高騰しており、農業現場は厳しい状況にあります。もし輸入が止まってしまえば、私たちの食卓は大きく変わる可能性があります。ここになって自給率の低さゆえに食料供給がストップするリスク…。いわゆる「食料安全保障」の危機が国として言われています。

JAグループが提唱する「国産国産」とは、「国民が必要とし消費す

る食料は、できるだけその国で生産する」という考え方です。これは、日本の農業を守り、安全で安心な食料を未来に繋げていくことを目的としています。そこで必要なのが「食農教育」です。農業産地に住んでいながら、畑に接する機会がない子どもが多い現状。逆に農家の子でない方のほうが農業に触れる機会があるような中で、若年層から大人までしっかり食を理解してもらおう。その理解なくして「食料安全保障」と言ってもピンときません。JAグループでは、JAバンクが全国の小学校5年生を対象に食農教育補助教材を贈呈する活動を長年続けています。昨年も市内の学校に、教育委員会を通じて届けさせていたただいてお

ります。国産農産物の大切さ、因果関係を理解してもらう運動が、この先さらに重要になると考えています。

小原…日本は食料自給率が低いゆえ、ロシアとウクライナの紛争や最近の中国の問題など世界情勢によって輸入先が変わったり、輸入が滞ったりします。自給率を上げるのは国として衣食住の「食」を守る大きな柱。秋田県は農業が基幹産業。「農業しかない」と言ってもいい場所です。JAのネットワークを活かして維持していかないと。秋田は「なくなっちゃう県ナンバーワン」なんて言われてますけど、食育を通じて地域に人を残すことにも繋がる。自分もやれることから協力していきたいです。

専務…今の「輸入」の話、他国の都合で食料が左右されてはいけないということですね。国内で生産したもので賄う体制を作らないといかに不安定か。お米にしても、国産の美味しさや安全安心なものを、小さいうちから食べて慣れ親しんでもらう

て、将来選択してもらおう。JAはただ物売るだけでなく、国民の食料を維持する面も担っているわけです。

地域での実践と「失敗」から学ぶこと

専務…実際に青年部が取り組んでいる、地元の学校や地域と連携した事例、あるいは課題についてお聞かせください。

小原…青年部では、各支部が本当に工夫した活動を行っています。なかでも横手支部は、全国ニュースに取り上げられる「旭小学校の稲作」事業。児童らが種まきを行い、どころになりながらの代掻きドッジボール、田植えから稲刈り、さらには収穫したお米でお餅を作って販売するところまで、一連の流れを子どもたち体験させています。これはもう、自分たちが子どもの頃から続く伝統です。

高橋…そうですね。旭小学校の「代掻きドッジボール」は横手支部盟友の父が始めたもので、昨年の開催で



副部長

高橋 達也 (27歳)

【学歴】

増田高等学校卒

【職歴等】

J A 秋田ふるさと

【作付け品目・面積】

ネギ100a、小玉スイカ1.0a

【趣味等】

アニメ鑑賞

【他】

令和7年秋田県青年大会

「主張発表大会」最優秀賞

28回を数えます。父から子へ食育事業が櫛のように受け継がれています。子どもの時に体験した経験はいまだに色鮮やかによみがえってくる気がします。

小原…過去には、青年部本部事業として神奈川県相模原の小学校へ田植えの出前授業をおこなっていました。盟友みんなでワゴン車に乗って徹夜で向かったことを思い出します。花壇を耕起し田植えをさせたり、牛乳パックに軟式の野球ボールを入れて脱穀を試みたりと都会の子どもたちには貴重な体験だったと思います。現在は女性部と共同で開催する「ちゃぐりんフェスタ」が中心となっており、令和7年度は、各部会の協

力もいただき夏と秋の2回開催しました。盟友のスイカ圃場の見学やネギやリンゴ、菌床シイタケの収穫などをを行い、子どもたちが自分で収穫した農産物を女性部の皆さんと一緒に調理をして食す、といったことを行っています。後日、女性部員の方から伺ったのですが、「シイタケが嫌いだった子供が今では大好きになった」と親御さんから喜びの連絡がきたとのことでした。

都会はもとより旭小学校のように地元の学校で継続するのは本当に意味があることです。平鹿支部でも醍醐地区や吉田地区で田植えをやっていましたし、また、青年部事業ではありませんが増田では増田高校の生徒が「サキホコレ」の播種から稲刈

りまでを同地区の小学生へ指導するなど一生懸命頑張ってくれています。

高橋…私も増田高校出身で果樹栽培を専攻していました。当時は学内のイベントや増田の町中を花きなどの農産物を携えて行商して回り好評だった思い出があります。貴重な体験だったと思います。

昨年初めて旭小学校の稲作の活動に参加しましたが、雨が降らず水が張れない。雑草の「ヒエ」がすごくて。青年部員が田んぼに入り抜いたのですが、なかなか人が集まらず、少人数で行い大変な作業でした。子どもたちだけではなく指導する我々も自然環境の厳しさを改めて学びました。

佐藤…十文字地区では田植えの食育事業をしていましたが、令和3年に十文字の4つの小学校が統合し、小学校から田んぼまで遠く、継続が困難となったため昨年は「バケツ稲」をおこないました。管理を学校や児童に任せるところ、日中に水やりしたため温度が上がりすぎて枯らして

しまいました。稲刈りはできませんでしたが、振り返りと次年度への課題と対策を指導しに行きました。

「失敗したらこうなる」というのを経験できたことも一つの勉強かなと。日中の暑い時に水をやれば稲が煮えてしまう。農家なら朝夕の涼しい時にやるのが基本ですが、それを失敗で学べた。来年は朝か夕方にやってくださいね、と伝えて、また楽しく続けていければと思っています。

組合長…高橋副部長は増田高校の出身。横手市内唯一の農業高校ということ、J Aでは共済部門の「地域貢献事業」として農業機械などを直近で2回ほど寄付しております。農業の担い手の育成を目的に有意義に使っていただきたいと考えての事業です。

最近、人の問題、学校側の体制、そして外に出ること自体が熱中症やクマの被害で危機になるなど、環境があまりにも変わりすぎています。そんな「ありきたり」が通用しない時だからこそ、逆にチャンスだと思っ



副部長

佐藤 龍太郎 (29歳)

【学歴】

東京農業大学卒

【職歴等】

よこて農業創生大学校

【作付け品目・面積】

アスパラガス33a

(施設31a、露地2a)

【青年部以外の役職等】

アスパラ部会役員、消防団員

【趣味等】

旅行、映画鑑賞、スポーツ観戦

て踏ん張って時代を踏まえた「食育」を広めていかなければいけないと思っています。

専務…私が青年部の部長を務めさせていただいた13年前、「地元の食材

の豊富さや新鮮さを子どもたちに知ってもらい、地元の農業を応援してもらいたい」との思いから、JA青年部が主体となって生産部会員が農畜産物を持ち寄り管内産食材を100%使用した給食を市内の小学校21校、中学校8校の計8,000食分(当時)1日限定で行いました。

JA青年部のメンバーが実際に学校を訪れ、子どもたちに横手の農業や地産地消の大切さについて授業をしたり、一緒に給食を食べたりと交

流を持ちました。生産者と消費者が直接触れ合う貴重な機会は途絶えさせてはいけないと常にも思っています。

農業のSNS発信と「農家のリアル」

専務…生産現場の努力をどう消費者に伝えるか。現代ではTVや新聞などマスコミにたよらずとも個人で情報発信できるツールが多くあります。そこで皆さんはSNS等の活用や運営は行っていますか。

小原…SNSは一つのツールと考えています。自分は忙しさにまかせて「見る専門」になっていますが、リングのクマ被害が甚大だった生産者が、トレイルカメラのデータをJA

の広報へ提供したり、SNSで必死に発信していました。SNSは農家の現状をダイレクトに伝えることができ、それをメディアが取り上げるなど、様々な波及効果もあると感じました。

佐藤…私は失敗も含めてSNSに載せています。ホワイトアスパラをはじめた頃、売れ行きが芳しくなく、「失敗」や「現状」を投稿し続けた結果、それを見たメディアの方が連絡をくれて、ラジオに2年連続で取り上げてもらいました。そこから直売所の売れ行きがドーンと上がって、飲食店からも連絡が来ました。

高橋…私も合間にネギの生育状況をインスタグラムに投稿しています。目的は自身のPRと、失敗の共有です。他の生産者と情報を共有して、具体的なアドバイスをいただいたり精神的に安心したりと助かったことが多々ありました。

佐藤…「アザミウマ(害虫)が止まらない」という時に他産地の人が効

く菓を教えてくれたりして、情報を仕入れる場としても有効に活用しています。また、今年度初めてパートを募集し、SNS経由で来てくれました。もともとフォローしてくれていた方で、SNSで仕事内容も把握されており、興味を持って来てくれました。これはSNSを活用して初めて思ったメリットですね。

専務…SNSでファンになった人が応援に来てくれる。いい流れですね。販売戦略以外にも求職者向けの効果もあるようです。高橋さんについては、働きたい人(求職者)と農業者(求人者)をスマートフォン等のアプリでつなぐ労働力のマッチングツール1日農業バイトアプリ(デイワーク)を利用されているということとで状況はどうか?

高橋…私のところでは、デイワーク利用が管内で一番多く20~30代の方がリピートしてもらっています。本荘市などの他市町村からも来ていただいています。経営者の年齢が上がるとアプリから離れがちですが、今

後も働きたいというリピーターがづく使い方ができれば理想的だと思います。

組合長…SNSの利用については、これからも加速度的に増えていくと思っています。発信する目的や情報伝達として大いに利用すべきだと思っています。ただ、繁忙期などでは個人での発信が難しくなる場合もあるかと思っています。そういった場合にはJAが運営するSNSの発信も一助になればよいと考えています。

専務…青年部の3人には、昨年8月に販促活動ということで横手市とJAと一緒に上京し、(株)九州屋の店頭で西瓜の試食販売キャンペーンに行いただきました。直接売り場で消費者の方と対話しながら売っていたとき、どのように感じましたか。

小原…生の声を聞いて人気が伝わってきました。自分はリングゴの生産者です。で、リングゴの時期(11月)にも行きたいと思ったくらいです。

佐藤…東京の人は立ち止まってくれ

ないイメージがありました。いざ行くと試食して質問してくれたり、秋田出身の方が声をかけてくれたり。販促活動としての意義があるなと思いました。

高橋…自分はスイカ「あきた夏丸」を生産していたので、都会でのJA秋田ふるさと産スイカの人気を見て「もっとスイカを作付けてもよかったですか」と思うほどでした。

専務…SNSと対面とではコミュニケーションの方法として対照的だと思いますが、状況や目的に応じて使い分けることで、より効果的なコミュニケーションや情報収集が実現できます。それぞれの特徴を理解し、適切に組み合わせ、情報発信やファンづくりができればいいですね。

担い手確保とこれからの食育

専務…食育を農業への関心と担い手確保につなげるための「仕掛け」についてはどう考えますか。

小原…先ほどお話ししました「ちゃぐりんフェスタ」は子どもたちの農業に対する関心を育むにはとても、意義がある活動と思っています。

増田支部では、増田小学校とのやりとりがあり、学校長の思いから「校内にリングゴを植えたい」と苗木を買いました。果樹は剪定や防除などハードルが高く、最初は止めるアドバイスもしたのですが、「花が咲き実がつく過程を子どもたちに見せたいという思い」もあります。地元の特徴をだした「食育」を行っていきたいと思っており、個人的に相談に乗っているところです。必要に応じて青年部増田支部の力を借りていきたいと考えています。

バケツ稲の失敗もそうですが、我々の「当たり前」を知らない人に教えていく。青年部としてやれる範囲で協力して、特色ある学校づくりを支えたいと考えています。

佐藤…昨年の末に、増田高校で「先輩と農業を語る会」で講演してきました。

私は大学を卒業後、横手市が実施

する農業の担い手育成・所得向上を目指す事業「よこて農業創生大学校」のカリキュラムを受けており、その経験や、就農までの大変だったことも隠さず話してきました。高校生への食育は、担い手の確保に直結します。いいことだけでなくリアルを伝える。自分も春先のアスパラ収穫体験など、興味を持ってもらう仕掛けを考えていきたいです。

専務…リアルな体験を話してもらうことが大事だなと思っています。今年度、スイカ部会で新規作付け者向けに事前アンケートをもとにした部会役員との交流会を開催する予定です。長年の「経験談」や「失敗談」を踏まえた内容となる予定です。よいイメージだけを思い浮かべ現実とのギャップに戸惑わないように「理想と現実」を知っていただくことも大切なと思っています。

高橋…私は今年度、「農業近代化ゼミ」でネギの収穫体験をほかの作物を作付けする生産者向けに企画しました。違う作物(トマト等)を作る

専門家が集まる会ですが、意外と他の作物の現場を知らないんです。他を知る機会を増やすことで、新規就農者だけでなく今の農家の関心も広がる。こういう活動を今後も提案していきたいです。

専務…新規就農者だけでなく既存農家も、他品目を知ることによって経営の幅が広がり複合経営に向かうことができますね。とても良い取り組みだと思います。我々JAも「JA講座」を開講し管内の多機能型低温倉庫をはじめとした様々な施設を地域の方々に見学してもらいながらJAのファンづくりに努めております。

JAのファンづくりという点で、マスコットキャラクターの「ふるっぴ」も活用しています。横手市とのトップセールや各種部会事業への参加、メディアへの露出など様々な活躍を見せています。イラストコンテストで生まれた「ふるっぴ」の生みの親の子供たちが、食育と合わせて大人になってもJAと繋がっていてくれたら嬉しいですね。

小原…今後も「ちゃぐりんフェスタ」など食育事業へも積極的に参加して子どもたちとも交流を深めて大人になっても子供たちがJAとつながっていてくれる橋渡しになってくれたらうれしい。最終的に「ふるっぴ」を考えてくれた子どもたちが親になって、その子どもたちとJAを訪れていただけたら嬉しいですね。

望む「食の未来」

組合長…今、農業への関心は全国的なものとなっています。お米をはじめとする国産農畜産物に対し、これほど注目が集まっている現在は、農政の大改革・大転換の時期であり、我々にとって「最高のチャンス」だと捉えています。

JAとしても、担い手確保の観点からは非常に重要です。今の担い手は、10年前とは異なり、一人ひとりが「農業経営者」です。その姿を正しく理解してもらうために、小学校、中学校、高校、そして大人に至るまで、各層に向けた「食農教育」の場での発信が不可欠になっています。

即効性という意味では、やはり高校生や社会人へのアプローチが中心となります。担い手確保における一番のポイントは、個々の経営者が自らの経営に向き合い、「農業は儲かるんだ」「いい経営をしているんだ」という姿をしっかりと見せることです。これが何より大切だと思っています。そして、そのためのキーワードになるのが、生産物の「安全・安心」です。ここ「JA秋田ふるさと」という産地の、安全・安心にまつわる物語をしっかりと構築していくこと。それがあって初めて、我々の掲げる「食の未来」が見え、具体的なアクションが生まれてくるのだと考えています。

厳しい現状もありますが、産地と消費者が深く理解し合えるようになれば、これからの明るい農業は必ず拓けます。私は、今こそが「持続可能な農業」を実現できるチャンスだと思っており、非常にワクワクしています。

JA秋田ふるさとが何を発信していくのか。産地として安全・安心なシステムを作り、分析センター等の

設備を整えることはもちろんですが、例えば「あきたこまちR」のデビューに際して、パルシステムや生協をはじめとする消費者の方々と対話し、放射線育種技術に関する理解度を高めながら今年度の収穫に至ったような、地道な信頼構築もその一つです。こうした重要なキーワードやポイントをしっかりと押さえ、今後も産地の思いを発信していきたいと考えています。

専務…我々は責任産地として、安定供給と安全安心を担っています。今後とも青年部、女性部と連携して取り組んでいきましょう。今日はありがとうございました。

一同…ありがとうございました！

販売額計 48億1,184万円

(令和7年11月末現在) (前年同期比 96%)

園芸品目 43億4,191万円(前年同期比 100%)

果樹品目 4億6,993万円(前年同期比 69%)

ふるさと産品

令和7年を振り返る

園芸

令和7年度においても、気象変動や自然災害による全国的な生産量の不安定の中、農業の持続可能性や安全性、高い品質管理のもと、インバウンド需要や健康志向・地産地消等の意識の高まりにより、国産農産物の重要性が強まっております。

その一方で、エネルギー単価の高止まりによる生産コストは令和6年4月からの物流規制による物流コスト等、農業経営における様々なコストが上昇し、農業を取り巻く環境の厳しさが続いております。このような状況の中、今年度の出荷量は、野菜類で前年度を上回ったものの、花卉類や菌茸類で下回りました。総じて単価高で推移したことから、令和8年3月末で園芸総販売額は54億6,900万円となる見込みです。

きゅうり

定植作業はハウス栽培で平年並みの4月中旬でしたが、露地



栽培は4月以降の降雨の影響で圃場準備が遅れ、6月上旬のピークとなりました。定植後は高温傾向となり、徐々に生育の回復がみられ、露地栽培では平年並みの7月5日から出荷開始となりました。梅雨入りは6月14日となりましたが、降水量は平年より少なく経過し、7月19日の梅雨明け以降も高温と干ばつ傾向となり、きゅうりに適した環境により出荷量は増加したものの、フケ果の発生が散見されました。例年同様に8月上旬頃には出荷ピークを迎え、その後も高温と適度な降雨、台風の影響もなく生育は順調に経過しました。9月に入り稲刈り作業が早まったこともあり、収穫を早く切り上げた圃場が多くなりました。生産販売実績は、出荷量で前年対比102%の771.2t、販売額は昨年度同様に高値基調での販売環境となり、前年度並みの2億8,598万円となりました。

トマト

定植作業は4月下旬から開始

され、5月上旬から中旬にピークとなりました。定植後は降雨が多く天候不順が続いたため、活着は順調とはいえず、初期生育は緩慢となりました。6月に入り天候が回復し気温が上昇したものの、果実の着色が進まず前年度より4日遅れの6月21日から初出荷となりました。梅雨入り後は日照時間や気温も平年より高く推移したため、果実は小玉傾向で裂果の発生がみられましたが、その後は日射量が確保されたことから、比較的安定した出荷となりました。8月中旬は昨年度同様に猛暑による小玉傾向と日焼果や裂果等が増え、出荷量は減少しました、9月下旬頃から気温の低下とともに出荷量は徐々に回復し、例年並みの11月上旬まで出荷が続きました。今年度は前年度に問題となったオオタバコガ等の害虫被害が少なく、病害の発生も比較的少ない年となりました。生産販売実績は、出荷量で前年対比102%の268.6t、販売については安定した高品質な出荷が続いたことで、販売単価484円/kgで前年

対比120%となり、販売額1億3,000万円となりました。

西瓜

定植作業は降雨日が多く、晴天が続かなかったことから圃場準備が遅れ、トンネル栽培は4月下旬から始まったものの、普通栽培は7日程度遅れ、5月上旬の大型連休後半にピークとなりました。初期生育も天候不順が続いたことで活着までの時間を要したため、子づる発生や揃いに影響がみられました。トンネル栽培の移動作業は5月下旬から開始され、交配も順次おこなわれました。普通栽培では、トンネル除去作業はやや遅れの6月中旬から開始され、交配は平年並みの6月下旬から開始されたものの、交配期の日照不足や初期生育の遅れ等もあり、やや着果は遅れましたが、着果数の確保はできました。肥大から収穫期は、高温や少雨でありましたが、日照時間がかなり多かったため、果実肥大は順調に推移したものの、露地栽培で株元の黄化や萎れにより、必要な





葉面積の不足により果実が直射日光に晒され、うるみ果の発生が散見されました。病害虫については、降雨が少なかったこともあり、大きな被害はみられませんでした。生産販売実績は、出荷量で昨年度のような大雨被害がなく前年対比121%の3,611.1t、販売額では昨年度同様に高値基調での販売環境となり、前年対比120%の13億1,864万円となりました。

◆枝豆

4月から5月は降雨日が多かったことから、早生種の圃場準備や播種作業は遅れての開始となりましたが、順次に中生種や中晩生種等の播種作業がおこなわれました。初期生育は5月までの天候不順の影響等で、早生種の生育は抑制傾向となり、草丈はやや短く推移しましたが、中生種や中晩生種は天候不順の影響は少なく、概ね生育は順調に推移しました。開花から収穫期については、高温が続いたものの適度な降雨がありましたが、中生種では7月の高温と

少雨の影響を受け、花落ちや不稔莢の発生が目立ったほか、莢肥大でもバラつきが大きくなりましたが、中晩生種はその影響は少なく推移しました。病害虫については、降雨が少なかったことからべと病等の病害発生は少なかったが、カメムシ類やダイズサヤタマバエによる害虫被害が目立ちました。生産販売実績は、出荷量で前年対比105%の207.5t、販売額は前年度の単価には及ばないものの終始安定した単価で推移し、1億6,469万円となりました。

◆アスパラガス

春芽については、3月の気温が平年より上回ったことから、ハウス半促成栽培は3月25日から出荷開始となりましたが、4月上旬の遅霜の影響で一部低温障害がみられました。露地栽培については、4月24日から出荷が開始され、天候不順等の影響で出荷ピークは前年度より10日遅れの5月16日となりました。ピーク以降は春先の欠株や前年度の大雨による冠水等の影響に

よる病害で、出荷量は伸びませんでした。夏芽については、ハウス栽培で6月上旬から、露地栽培は7月上旬から開始されました。7月中は降雨がなく、干ばつ状態となり、露地栽培では茎葉の生育量が小さくなり、出荷量は減少しました。8月中旬以降は降雨の影響を受け、やや生育や出荷量は回復し、10月21日で最終出荷となりました。病害虫の発生は前年度よりは少なかったものの、茎枯病は圃場条件等の影響もあり、多発した圃場が散見されました。生産販売実績は、12月から出荷される伏せこみ栽培を含めると、出荷量で33.1t、販売額で4,700万円の見込みとなります。

◆花卉

露地菊の定植は、春先の天候不順により圃場準備が進まず、8月露地向け圃場では31日遅れで、5月の大型連休後半がピークとなりました。9月彼岸向け圃場は6月初めにピークとなりました。初期生育は5月の低温や降雨の影響で、側枝

長が短いなど生育遅れで推移しました。6月から7月は高日照と少雨により、8月露地向けは全体的にやや草丈が短く、小菊では生育のバラつきがみられました。出荷については、輪菊は順調な出荷となりましたが、小菊は生育遅れもあり出荷遅延の圃場がみられました。9月彼岸向けでは、高温や干ばつの影響で、下位等級品の出荷が目立つものの、概ね需要期の出荷で推移しました。トルコギキョウ・洋花については、生育期間中の高温等の影響で、全体的に前進傾向の生育となり、ややボリューム不足となりました。花卉全体で多機能型低温倉庫の予冷効果による品質向上と産地情報発信により安定した価格を確保し、生産販売実績は、冬期出荷物を含めると、出荷量は6,675千本、販売額は5億1,200万円の見込みです。

◆菌茸

今年度の菌床しいたけの栽培菌床数は約330万菌床となり、昨年度より約10万菌床減少





しましたが、生産者の栽培技術により高品質な出荷がなされ、菌茸類全体で11月末の販売実績は14億9,203万円となりました。

9月まで気温が高かったことなどから、秋冬菌の盛期は1週間ほど遅れ10月下旬頃から開始されました。菌茸類は年末年始需要に向け本格的な出荷を迎えます。今後も予約相対取引を中心に安定販売並びに安定出荷に取組み、生産現場で危惧される燃料費や資材費などの高止まりにおいても、市場動向を注視しながら有利販売に努めてまいります。生産販売実績は、冬期出荷量を含めると販売額24億9,800百万円の見込みとなります。

果 樹

◆ リンゴ

6～7月の高温小雨により、各品種とも小玉生産となりました。加えてチャバネアオカメシの大発生や鳥獣害にも見舞わ

れたことで、生食用の集荷量は「つがる」で前年比57%、「やたか」で同89%、「シナノスイート」で同78%と、前年度を大きく下回りました。

主力品種「ふじ」については、秋に雨が多かったことで肥大がやや回復したこともあり、12月18日現在の生食用の集荷量は前年比93%となっています。販売面は、過去最高とも言える昨年度には及ばないものの、平年以上の単価で推移しています。

昨年度に引き続き市場でのトップセールスや、横手市主催による県外での雪まつりへ参加して直売を実施する等、「銀世界りんご」のPR活動を実施しております。

◆ ブドウ

4月からの気温が概ね平年並みに経過したことに伴い、ブドウの生育も順調に推移し結実量は十分に確保されました。目立った病害虫の発生もなく、7月末時点における各品種の作況予想では前年度の110%以上が見込まれました。しかし、それ以降は高温、渇水によって全

体的に小房傾向となり、加えてシャインマスカットでは障害果粒が発生し、生産量と果実品質の低下を招きました。本年度は栽培管理における灌水作業の差も作柄に大きく影響を与えております。

販売実績の最終見込みは集荷数量207t(前年比105%)、販売金額1億1,800万円(同104%)で、長雨の影響から不作となった前年度実績を上回ったものの、主力品種のほとんどが集荷計画を割り込む結果となりました。

◆ モモ

着果量は確保されていたものの、降雨が少なかったため小玉傾向となりました。特に早生種で影響が大きく、早生種の集荷量は前年比41%にとどまる苦しいスタートとなりました。

中生・晩生種では肥大はやや回復したものの、収穫期の降雨と高温による果実の傷みが多く見られ、集荷量は前年度を下回りました。

全体の販売実績は、数量150t(前年比73%)、販売

金額8,723万円(同70%)となりました。

昨年度に続き、天候によって傷みやクレームが多発した年となりました。いかに正品率を上げていくかが来年度の課題となります。

◆ サクラランボ

本年度は開花期間中の降雨量が多く、風も強く受粉環境が厳しい状況で、着果量が少なくなりました。また、前年度に「褐色せん孔病」の発生で早期落葉した園地が多く、花芽の質が悪かったことも着果量に影響しました。収穫期に入ってから高温障害により果実品質が低下したことで、集荷量は思うように伸びませんでした。

販売実績としては、数量は前年を上回る約4t(前年比114%)、販売金額1,180万円(同114%)となりました。



● 令和7年度 園芸・果樹生産販売実績

(令和7年11月末現在)

総 合		令和7年度実績		令和7年度年間計画				令和6年度同月実績			
		数量(t、本)	販売額(円)	数量(t、本)	対比	販売額(円)	対比	数量(t、本)	対比	販売額(円)	対比
野菜	きゅうり	771.2	285,982,772	840.0	92%	290,000,000	99%	757.7	102%	287,229,866	100%
	トマト	268.6	130,268,957	305.0	88%	106,750,000	122%	263.9	102%	105,929,097	123%
	西瓜	3,611.1	1,318,646,657	4,500.0	80%	1,200,000,000	110%	2,973.8	121%	1,102,259,984	120%
	枝豆	207.5	164,690,270	240.0	86%	180,000,000	91%	197.9	105%	171,121,632	96%
	アスパラガス	30.6	41,935,380	43.0	71%	61,500,000	68%	38.8	79%	53,074,385	79%
	食用菊	2.4	5,779,548	4.0	60%	7,500,000	77%	3.5	69%	6,230,427	93%
	山菜	0.5	2,797,485	1.1	46%	6,000,000	47%	0.5	97%	2,685,140	104%
	メロン	12.3	6,379,264	12.8	96%	6,070,000	105%	9.7	127%	4,709,349	135%
	シシリアンルージュ	3.5	1,530,134	13.1	26%	6,747,000	23%	13.9	25%	7,182,146	21%
	ピーマン	12.0	7,484,615	29.7	40%	13,885,000	54%	19.2	63%	9,810,806	76%
	にら	28.1	15,413,984	43.3	65%	21,266,000	72%	45.6	62%	21,462,029	72%
	せり	3.1	8,342,981	3.7	84%	7,238,000	115%	3.4	93%	8,542,296	98%
	ホウレン草	206.7	187,756,778	228.2	91%	190,519,000	99%	196.8	105%	176,613,952	106%
	小松菜	24.1	9,113,066	25.0	97%	10,015,000	91%	26.1	93%	10,454,701	87%
	みつば			0.0		257,000		0.0		0	
	ミニカリフラワー	10.1	3,218,806	19.9	51%	4,996,000	64%	15.3	66%	4,090,335	79%
	塩蔵野菜	11.5	3,037,647	22.4	51%	6,015,000	51%	2.9	403%	630,021	482%
	ネギ	167.9	66,860,481	240.0	70%	88,000,000	76%	206.4	81%	78,834,503	85%
	里いも	24.4	18,260,573	30.8	79%	19,229,000	95%	33.1	74%	21,636,540	84%
	アスパラ菜	0.8	592,488	13.3	6%	7,500,000	8%	0.5	161%	295,689	200%
	そら豆	5.9	4,001,072	11.0	53%	6,500,000	62%	9.3	63%	5,754,156	70%
	朝採り野菜	34.3	11,341,650	43.0	80%	14,061,000	81%	41.1	84%	14,456,108	78%
	安心畑他		60,885,844	0.0		88,917,400	68%	0.0		65,431,977	93%
	その他野菜	40.0	20,335,085	97.1	41%	22,092,000	92%	43.5	92%	21,978,577	93%
	野菜計	5,476.7	2,374,655,537	6,766.5	81%	2,365,057,400	100%	4,902.7	112%	2,180,413,716	109%
花卉	菊	5,267,470	325,221,269	5,796,000	91%	379,846,000	86%	5,336,994	99%	352,706,989	92%
	ゆり	152,825	11,441,200	138,000	111%	13,971,000	82%	192,230	80%	15,254,989	75%
	シンビジウム	2676.0	1995852.0	32,200	8%	24,470,000	8%	3,378	79%	2,015,819	99%
	トルコギキョウ	380,920	70,783,523	411,900	92%	71,567,000	99%	401,402	95%	76,540,797	92%
	その他花卉	691,117	65,780,711	641,100	108%	63,038,000	104%	711,170	97%	64,877,611	101%
	花卉計	6,495,008	475,222,555	7,019,200	93%	552,892,000	86%	6,645,174	98%	511,396,205	93%
菌茸	菌床しいたけ	1,188.4	1,455,551,319	2217.0	54%	2,698,920,000	54%	1,333.6	89%	1,599,073,176	91%
	原木しいたけ	3.3	3,292,083	8.0	41%	7,750,000	42%	5.0	66%	4,850,366	68%
	その他菌茸	62.7	33,192,307	105.0	60%	55,330,000	60%	67.9	92%	35,510,682	93%
	菌茸計	1,254.4	1,492,035,709	2330.0	54%	2,762,000,000	54%	1,406.5	89%	1,639,434,224	91%
野菜・花卉・菌茸計			4,341,913,801			5,679,949,400	76%			4,331,244,145	100%
果樹	りんご	500.79	163,398,140	3,921.70	13%	1,079,912,340	15%	799.39	663%	287,557,677	57%
	ぶどう	128.82	91,461,792	240.48	54%	128,492,822	71%	111.14	116%	88,424,701	103%
	西洋なし	349.33	115,690,953	500.81	70%	168,350,864	69%	480.74	73%	165,828,015	70%
	さくらんぼ	4.04	11,801,341	7.50	54%	18,495,461	64%	3.55	114%	10,317,255	114%
	もも	150.31	87,233,724	210.61	71%	127,151,291	69%	206.48	73%	124,598,266	70%
	その他果実	0.35	349,195	1.02	35%	753,130	46%	1.45	24%	1,062,332	33%
	果樹計	1,133.64	469,935,145	4,882.10	23%	1,523,155,908	31%	1602.75	71%	677,788,246	69%
	総合計		4,811,848,946			7,203,105,308	67%			5,009,032,391	96%

※表記上データは四捨五入しております。



【稲作】を振り返る

高温と渇水乗り越え品質向上

1等米比率92.6%、e c oらいす認定率96.9%に

育苗期

低温・日照不足で葉令の若い苗の仕上がりが

播種作業の盛期（進捗率50%）は4月24日（平年より1日早い）となりました。

育苗期間中は、全般に日照時間が少なく、育苗ハウス内の急激な温度上昇が抑えられたため、高温障害やもみ枯細菌病等は比較的生が少なく状況となりました。

育苗期間の気温も低く経過し苗の生育はやや遅れ気味で葉齢が若い苗で田植えを迎える傾向が多くなりました。

耕起作業期間も降雨の日が多く、圃場の乾燥が進まず作業遅延を余儀なくされたところが多く見られました。

本田

耕起の遅れにより田植も遅れ初期生育は緩慢

田植え作業は、盛期（進捗率50%）が5月25日（平年より2日遅い）となりました。田植え後は最高気温が低く、日照時間が少ない日が多かったため活着や初期生育はやや緩慢に推移しました（6月10日調査 あきたこまちR草丈平年比95%、m当たり茎数同比84%、葉齢同比10.4葉）。

初期・中期

気温上昇も土壌還元により分げつ抑制

6月中旬より気温がかなり高く

幼形期・減分期

幼穂形成期早まるも降雨なく渇水により生育に影響

7月は最高気温が30℃を超えた日が多く、ほとんどの圃場で幼穂形成期が早まりました。7月6日から8月4日までほぼ降雨がなく管内の広範囲で渇水により稲が萎れる等の被害が発生しました。

減数分裂期も早まり7月25日調査の草丈は平年比112%、m当たりの茎数は同比81%、葉数は同差+0.6葉、葉色は平年並み（同100%）の生育となりました。この時期の節間（第Ⅲ～第Ⅳ節間）の伸長が倒伏に大きく影響します

出穂期・登熟期

一穂粒数の増加により総粒数を力バ、収量確保は登熟歩合が鍵に

管内のあきたこまちRの出穂盛期（全体で50%到達）は7月30日（平年より4日早い）となりました。

登熟期（8月20日調査）はあきたこまちRで穂数が平年比89%と少なかったものの稲の補償作用により1穂粒数が増加したため、m当たりの粒数は平年比106%となりました。平年作以上の総粒数は確保されましたが、二次枝梗への着粒が多く登熟歩合の低下や渇水圃場の減収が懸念されました。

収穫期

倒伏圃場少なく登熟歩合向上

9月に入ってから平均気温を上回る日が続き、刈り取り適期は大幅に早まりました。あきたこまちRの刈り取り始期は9月14日で平年より6日早くなりました。刈り取り盛期（進捗率50%）も平年より2日早い9月27日となっています。

稈長は令和6年並み以上の長さとなりましたが、前述のとおり下位節間が短く（令和7年は第Ⅰ節間長が長くなっている）倒伏圃

病害虫

水田内雑草が多い圃場は斑点米が増加

場は少なく、登熟歩合が向上しました。（秋田県平鹿地域振興局農林部農業振興普及課よこての稲だより参考）

秋田県病害虫防除所の情報では、葉いもちの全般発生開始期は平年よりやや早い7月1日頃となっています。気温日較差が大きいいちもあり稲体の結露により7月中旬から病斑増加が確認されました。葉いもちからの移行による穂いもちの発生量は平年並みとなりました。

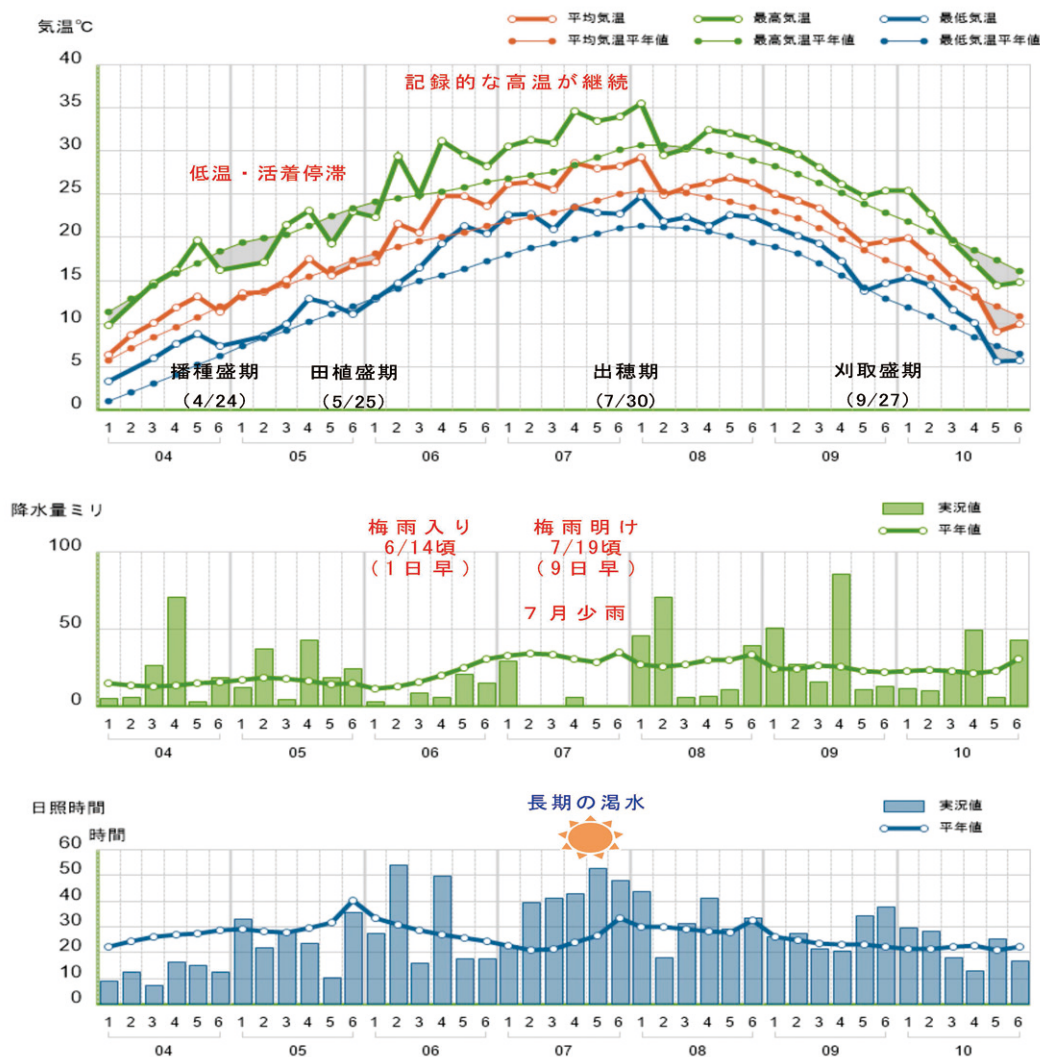
ごま葉枯病が一部の圃場において下位上位葉にまばらに確認されましたが、穂枯れ等による被害は見られませんでした。

紋枯病は7月下旬の穂ばらみ期の気温が高く降水量もなかったことから発生量は少なく抑えられました。

斑点米カメムシ類については、ノビエやホタルイ等カヤツリグサ科雑草が発生している水田で被害が多くなりました。令和6年より籾の肥大期の気温や日照時間が確保されたことにより割れ籾の発生率が低くなり、斑点米混入率が低下しました。

令和8年産米の防除対策は第一に雑草対策です。本田除草剤の適期散布により斑点米カメムシが寄生するノビエやホタルイの除草対策が重要です。加えて発生密度が

令和7年産米の気象経過 4月～10月（アメダス横手・秋田県農業気象システムより）



高い畦畔の防除（出穂前）と出穂期10日後（本田への進入ピーク）の本田防除及び出穂期24日後（割れ籾発生時期）の2回防除が必要です。除草と防除は「車の両輪」ですので、適期情報を発信して参ります。

ふるさと全体の令和7年産1等米比率は92・6%となりました。2等米以下の格付理由の68・6%がカメムシ被害による着色粒、次いで22・0%が未熟粒・充実度、7・4%が胴割粒・砕粒となり、本田内雑草有無や高温下での渇水、登熟期の肥料不足、刈り遅れ等が要因として挙げられます。令和7年も登熟期の最高気温が35℃を超えるような猛暑日は少なかったため、白未熟粒は少なく透明感のある米が多く生産されています。温暖化により水稻の栽培期間、特に登熟期の高温はもはや避けられない状況になっており、品質・収量を担保する「ケイ酸肥料」の施用はスタンダード化する必要があります。

まとめ

東北農政局発表による令和7年産米の作況単収指数は、県南「103」、10a当たり収量は576kgと公表されました。生産者の実収は渇水の影響もあり個人差があるようです。令和7年産米についても田植え後の低温により平年比茎数不足となりました。茎数不足は4年連続で起こっています。令和7年産米は生育期間の高温・多照により光合成が活

発化し、登熟歩合や千粒重が向上したため、1穂の籾のほとんどが稔ったこととなります。近年は登熟歩合が低下した場合減収するリスクが高い傾向にありますので、令和8年産米は反収向上に向けた栽培試験にも取り組んで参ります。

集荷数量については、民間流通米で約68万俵、契約数量対比99・3%（令和7年12月12日検査日現在）となっております。食味についても登熟歩合が向上したことで玄米のタンパク質含有率が全体的に低く良好です。（倉庫における玄米食味値…あきたこまち平均77・7、サキホコレ平均83・3）。

「ふるさとeCOらいす」は認定率96・9%となりました。生産者の皆様のご理解をいただき継続的に積み上げてきた結果、販売先にも高い評価をいただいております。

これからの米づくりに当たっては温室効果ガス削減等環境に配慮した取り組み（J-クレジット）（中干し期間延長）等持続可能な稲作を推進しながら、販売先との信頼関係を構築し需要に応じた米生産・生産振興に努めて参ります。異常気象に対応した栽培技術や品種の選定により、求められる産地を生産者の皆様と一緒に作り上げて参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



ドックはWeb予約となりました

人間ドック

平鹿総合病院では、日帰り人間ドック・乳腺ドック（マンモグラフィ・乳腺エコー）を実施しております。申し込みはWebをご利用下さい。

※スマートフォン、インターネット環境がない方は、来院時のご予約等も可能です。



平鹿総合病院

検索



平鹿総合病院ホームページ

<https://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/c3.shtml>

平鹿総合病院のホームページにアクセスし、『健診・検診』から案内画面にしたがってご入力下さい。

農協組合員証の活用について

当院を含めた秋田県厚生連病院では、秋田県内の農協組合員を対象に各種人間ドックを対象とした農協組合員割引制度を導入しています。人間ドック受診日が決まったら、事前に最寄りのJA窓口で組合員証の発行をしてもらい、ドック当日に忘れずに持参して下さい。

※手続きの関係上、当日受付時提出分のみ対象となります。

当日組合員証を忘れてしまった場合は、必ず受付時にお申し出ください。

割引項目：日帰りドック（JA健診は割引対象になりません）
乳腺ドック

対象者：正組合員本人・同居家族、及び准組合員本人（家族不可）

割引額：日帰りドック	正組合員本人・同居家族	4,000円割引
	准組合員本人（家族不可）	2,000円割引
乳腺ドック	正組合員本人・同居家族、及び准組合員本人（家族不可）	2,000円割引

※請求額が上記金額に満たない場合は、割引上限は請求額まで。

※ご不明な点は、下記までご連絡をお願いします。



サキホコレ！生産拡大フォーラム JA秋田ふるさと秋田ブランド米栽培研究会 最優秀賞に堀江さん(横手地区)！優秀賞に西田さん(平鹿地区)！

秋田米新品種ブランド化戦略本部は12月22日、「サキホコレ！生産拡大フォーラム」を秋田市で開き、第3回サキホコレ食味コンテストの決勝審査が行われました。12生産団体から27点の出品があり、最優秀賞にはJA秋田ふるさと秋田ブランド米栽培研究会堀江均さんが輝きました。堀江さんは「受賞を家族に報告したい。精進してこれからも頑張りたい」と話しました。優秀賞には、当JA同会から西田俊夫さんが選ばれました。

なお、食味コンテストの審査は、1次審査にて玄米の測定による上位9点を選出し、2次審査では同戦略本部による食味官能試験が実施され上位3点を選出。その後、当日のフォーラムにより食味官能試験が行われ順位が決定されました。

また、同日サキホコレマイスターの委嘱式も行われ、当JAからは味水憲幸さん(横手地区)と佐藤宏和さん(雄物川地区)が受嘱しました。



▲左からサキホコレ生産者協議会柴田康孝会長、西田さん、堀江さん、伊藤康さん(JA秋田しんせい)、秋田県農林水産部藤村幸司朗部長



▲最優秀賞の堀江さん㊦と優秀賞の西田さん㊧

秋田米フォーラム2025 石田さんの「あきたこまち」、「ザ プレミアム ファイブ」へ選出！

秋田県産米のさらなる飛躍を目指して毎年行われている「美味(おい)しい“あきたこまち”コンテスト」の結果発表が12月3日、秋田市内のホテルで行われ、全県から61点の出品があり、当JAからは優秀賞「一般財団法人日本穀物検定協会会長賞」に石田博文さん、優良賞「全農秋田県本部県本部長賞」に本間澄男さんが選ばれました。

コンテストの表彰式は、JAグループ秋田とJA全農あきたが主催する「秋田米フォーラム2025」の一部として行われました。

コンテストでは全県から出品されたコメを1次審査で玄米のデータなどから30点に絞り、2次審査では白米品質や食味によって12点を選出。

最終審査で上位5点に選ばれた石田さんの「あきたこまち」は「ザ プレミアム ファイブ」として12月6日から、県外では12月中旬から限定販売されました。



▲右から優秀賞の石田さん、優良賞の本間さん



▲「ザ プレミアム ファイブ」と受賞の様子



ふるさとの民話

貧乏の神

●再話／中川文字 ●画／佐々木愉美子

昔むがし、ある年の暮れの夕暮れ時、貧乏の神が寢座を探ねて歩りてだば、道筋で童子達が騒ぎして遊んでたけど。したば、近所の家がら母親が来て「この貧乏の神、早々に家の中さ入れ」って叫んだけど。それを聞いた貧乏の神は「はい、はい」って、さっそぐその家さ入って行ったけど。

翌年の暮れ、女房が「正月くるたって餅っこも搗がれねやば酒っこも飲まれねや。亭主、オラが織った生地っこ、町で正月の物ど交換っこしてきてくれ」って願ったけど。亭主は気乗りさねやがったども、ブラブラど町さ出がげで行ったけど。

てばやいでだば、向ぎやがら炭背負った親父が来たけど。その親父も炭売れねやなで困ってだけど。二人して、「売りにきた物、このまま持ちやで戻るなも癪だがら、交換っこするべ」っていうごどになつて、亭主は炭背負って家さ戻ったけど。

ちぐなつてきて我慢でげねやぐなつたけど。亭主も女房も隣の部屋さ逃げで行ってしまつたけど。

したば、囲炉裏の四角がら貧乏の神が四人も出で来て「熱っち、熱っち。こんな家さなの居らえだおでねや」って言って、皆んな逃げで行ってしまつたけど。

それがら、其家の生活ぶりは段々え良ぐなつて行つたけど。

とっぴんばらりのぼう



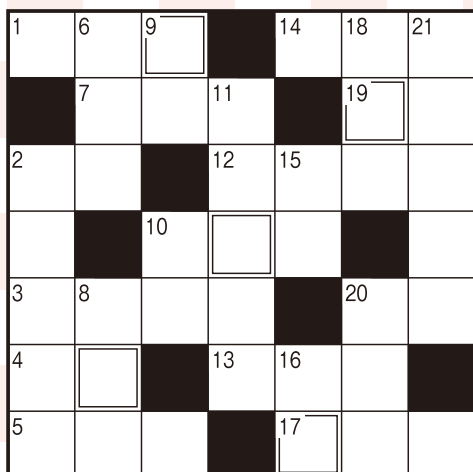
▲QRコードを読み取ると
音声で「ふるさと民話」をお楽しみいただけます。

新春クロスワードパズル

- タテの鍵
- 2、メレンゲを作るときに使う道具
- 6、鍋料理の締めにも使う麺
- 8、晴れかなあ、雨かなあ
- 9、牛、豚、鶏のものがよく流通しています
- 10、令和8年の干支です
- 11、歯ブラシにつけます
- 15、自分の兄弟姉妹の息子
- 16、ダルメシアンは模様の犬です
- 18、書初め大会で——に選ばれた
- 20、受験生が空欄に書き込んでいくもの
- 21、単位はアンペアです



※12月号の当選者については2月号でお知らせいたします



ヨコの鍵

- 1、正月に食べる、モチ入り汁物といえば
- 2、どら焼きに挟み込まれているもの
- 3、おせち料理の定番の一品。卵が材料の一つ
- 4、交差——、及第——
- 5、右手が——、という人が多数派です
- 7、本を読み終えること
- 10、ガラガラとのどを洗います
- 12、旅立つ人の——に駅のホームまで行った
- 13、ワラや木やレンガの家を建てる童話があります
- 14、漢字で書くと百足。足の多い生き物です
- 17、椅子のこと。ロッキング——
- 19、アルカリと混ぜると中和します
- 20、焚くとよいかおりが広がります

お年玉プレゼント

J A秋田ふるさと直売の会
「ふるさと安心畑」

おすすめセット **15**名様



※写真はイメージです



⑦ 今月の好きな記事とその理由
または当誌やJ Aへのご意見・ご感想

正組合員・正組合員家族・准組合員・員外

⑥ 該当する組合員区分 ※○をつけてください

④ 年齢 歳 ⑤ 電話番号

③ 氏名 (P.N)

② 住所 〒

① クロスワードパズルの答え

(J A秋田ふるさと 営農経済部 食農販促課 行)

【応募方法】

ハガキに左記①～⑦までの項目をご記入の上、下記までご応募ください。左の点線を切り取って管内最寄りの支店まで持参いただくかハガキに貼り付けてもご応募できます。なお、お寄せいただいたご意見は「おたより」のコーナーに掲載させていただく場合がございます。

【応募先】

〒013-0205 横手市雄物川町今宿字前田面20
J A秋田ふるさと 広報担当
またはJ A秋田ふるさとホームページ
<http://www.akita-furusato.or.jp/>
からでもOK。

(「みなさんの声と作品を
お寄せください」バナーをクリック!)



【締 切】

令和8年1月21日(水)当日消印有効



お知らせ

マネーロンダリング・金融犯罪対策への取り組み強化について

当組合では、金融機関としての信頼性を確保し、お客様の大切な財産を金融犯罪からお守りするため、マネーロンダリング・金融犯罪対策の取り組みを重要な経営課題の一つとして位置付け、一層力を入れて取り組むべく、組合内の態勢を整備いたしました。役員一丸となりマネーロンダリング・金融犯罪対策が組合内で徹底されるよう指揮のうえ、組合員・利用者の皆さまに安心して当組合をご利用いただけるよう取り組んでまいります。

今後ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年1月
秋田ふるさと農業協同組合
代表理事組合長 佐藤 誠一

園芸作物生産推進セミナー開催のお知らせ

多様な野菜類の複合栽培や高収益性作物の栽培による農業所得向上と複合経営の確立を目的とした「園芸作物生産拡大推進セミナー」を下記の通り開催いたします。

つきましては、来年度作付けをご検討中の方、家庭菜園での栽培方法を知りたい方等、是非ご参加ください。

日時：令和8年2月3日(火)
10時30分～16時30分
場所：JA秋田ふるさと
平鹿支店2階大会議室
講師：平鹿地域振興局農林部
農業振興普及課
内容：①圃場選定と排水対策について
②(各品目)栽培管理並びに水稲との複合経営について
品目：小菊・枝豆・きゅうり・ねぎ・大玉西瓜など
申込：令和8年1月22日(木)まで
申込先：最寄りの営農センターへ
お申し込みください
園芸課
☎0182-2316578

「健康のつどい」参加者募集

組合員・地域住民の皆様が健康で充実した生活を送れるよう、県の掲げる「健康寿命日本一」の実現に貢献するため「健康のつどい」を開催します。

日時：令和8年1月27日(火)
13時～(受付12時30分～)

場所：よこてシャイニーパレス 4F ホール
内容：「循環器病を予防するために」秋田県の健康長寿をめざして」
講師：平鹿総合病院副院長 高橋 俊明 先生
申込期限：令和8年1月14日(水)
申込：各営農センター又は食農販促課
定員：60人
(定員になり次第締め切り)
園お近くのJA営農センターまで

「こんぷりちえ倶楽部」第3回 男の料理教室

今回は、焼売づくりに挑戦!

日時：令和8年1月31日(土)
10時～12時(受付9時30分～)
場所：横手支店 2階調理室
内容：『焼売(シュウマイ)』
定員：12人(定員になり次第締切)
園食農販促課
こんぷりちえ倶楽部事務局
☎0182-2316540
✉:syokuhan@akita-furusato.or.jp



お申し込みフォーム

退職者のお知らせ

次の職員が退職いたしました。長い間お世話になりました。

【12月31日付】 茂木 亮太

JAの概況

Situation

組合員数 17,422人
(正組合員) 11,285人
(准組合員) 6,137人
貯金 1,358億9,572万円
貸付金 462億8,190万円
購買品取扱高 42億1,161万円
販売品取扱高 285億4,209万円
共済保有高(保障) ... 3,016億8,622万円
(2025年11月末現在)

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

ご縁があり広報を通じて写真に携わることが多くなりました。私の所属する写真団体で1月の9日から12日の会期でワイワイプラザにて写真展を開催します。JAからの助賛出品として全国農業新聞にて(み)が受賞した写真も展示いたしますのでぜひお越しくださいませ。(さ)

明けましておめでとうござい。ます。本年もJA秋田ふるさとをよろしくお願ひいたします。

年末年始の様に過ごしてしたか?私は毎年友達とラウンドワンで新年会を行っており、行ってきました。また、スノーボードにも行きたく、うずうずしております。今年はたくさんスキー場に行けるようにしたいです。(み)



JA通信 ふるさと

発行：秋田ふるさと農業協同組合
企画・編集：食農販促課 〒013-0205 横手市雄物川町今宿字前田面20
印刷：(株)全農ビジネスサポート秋田支店

TEL / 0182-23-6540
FAX / 0182-23-6501
E-mail / fu.staff@akita-furusato.or.jp

秋田ふるさと

検索

検索サイトでJAのホームページに簡単アクセス!

